



2021年

おすすめの本 4～6歳

過去3年間の出版物を中心に
市立須坂図書館職員が選びました。



本を読むのはおやすみの前？ いいえ、いつでも。
あるとき本は楽しいおもちゃ。あるときはごほうび。ある
ときはねむりの呪文。くりかえし読むうちに、ことばやり
ズムは本をぬけだし、日々のことばやりズムとなるのです。

どんなふうに見えるの？

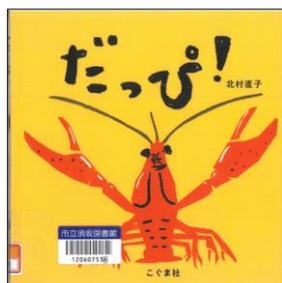
林木林/作 はたこうしろう/絵 すずき出版



草の上に寝ころんでいる、ぼく。走っている、ぼく。
さかだちしている、ぼくのこと、空の雲には、どんなふう
に見えるのか？ 雲の視点でながめることで、
地球の大きさ、広い世界にめざめる絵本。

E 八タ

すずかとしょかん



だっぴ！

北村直子/作 こぐま社

生き物たちがもぞもぞ……。あっ、脱皮だ！ザリガニやダンゴムシが成長のためにくりかえす「脱皮」をユーモラスに描き、自然に興味を持ち始めるころにぴったり。くりかえしのリズムで楽しく読める絵本。

Eキタ



あげます。

浜田桂子/作 ポプラ社

妹が生まれた。おもしろくない。そうだ、「子猫あげます」のはり紙みたいに、友だちにあげちゃえばいいんだ。でも、生まれたばかりの赤ちゃんは、ちっともかわいくなって、だれももらってくれない。

Eハマ



ぼくたちはさぼてん

いしかわまみ/文・絵 明窓出版

まどべで暮らすさぼてん。いたずら書きされたら、その目で見えるようになった。見える世界にいてみたい。いろんなことを、たくさん知りたい。さぼてんは、うえきばちからおりてみた。そこは……。

Eイシ

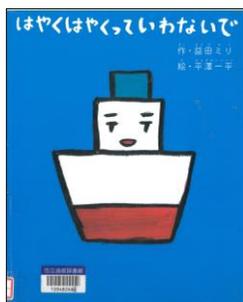


はじめての行事えほん

ほるぷ出版

「お正月」「節分」「ひなまつり」「端午の節句」「七五三」「お花見」「七夕」「お月見」など、日本の伝統行事の絵本。物語を楽しみながら、季節を結びついた日本の伝統を生活に取り入れましょう。

小型絵本コーナー Eホ



はやく はやくっていわないで

益田ミリ/作 平澤一平/絵 ミシマ社

「早く早く」っていませんか、子どもにも、自分にも。その子のペースも、性格も、個性としてあたたかく見守りながら、いっしょに育っていきたい。だれかが待っていてくれるって、うれしいことですね。

Eヒラ



てんじつきさわるえほん さわるめいろ

村山純子/著 小学館

点字の線をさわってたどり、迷路を楽しむ本。見えないひとも見えるひとも、子どももおとなも、いっしょに楽しめる。指先と心をとぎすまして進んでいこう。ユニバーサルデザインとはなにか、考える機会に。

378 ㈬

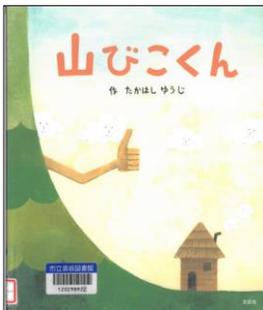


ひとりでおとまり

まるやまあやこ/作 福音館書店

はじめてのおとまり。なかよしのあやのちゃんのおうちだから、慣れているはずなのに、夜中に目が覚めてしまいました。「ここは、うちじゃないんだ。おかあさん、どうしてるかな」目をつぶってもねむれません。

E マル



山びこくん

たかはしゆうじ/作 文芸社

「やっほー」といわれたら、「やっほー」とこたえる。そんな山びこくんのお仕事にはルールがありました。決して自分勝手にしゃべってはいけません。ずーっと、ルールを守ってきた山びこくんでしたが……。

E 効



ねこすけくん なんじにねたん?

木田哲夫・伊東桃代/編 さいとうしのぶ/絵 リーブル

テレビ、パソコン、ゲームが、子どもたちの夜ふかしの原因になっています。生体リズムの乱れは成長に大きな影響を与えます。親子で楽しみながら「寝る子は育つ」を身につけて、小学生になりましょう。

E サイ